**１－１「学者の落としもの」**依頼人　学者

昨日、路地裏で時計を落としてしまった。靴磨きなら路地裏によく出入りしてるみたいだし、話を聞いてきてもらえないか？・初期証拠カード「落とした時計」に対して「依頼文の通り、頼んだよ」

・「学者のものらしき時計」「おお、この時計だ。ありがとう」**真相カード「見つかった時計」を渡してください。**

**１－２「家宝の剣」**

・初期「以前に新聞で見たというなら、記者に聞いてみるといいんじゃないかな」

・証拠カード「商人に借りた」に対して「商人に聞いてみるべきだろう」

**１－３「料理のレシピ」**

・初期証拠カード　「自作レシピ」に対して「バーのマスターに聞きに行ったら？」

・他「貴族様の所に行って確かめるといい」

**２－１　狼男**

・初期ハンドアウト「狼男のうわさ」に対して「ばかばかしい。何か見ていそうな人間に話を聞くんだな」

・「目撃情報」「銀色の子犬」に対して「そーなのかー」

・証拠カード「目撃情報」「銀色の子犬」に対して　「なら、記者に直接聞いてみればいいのでは？」

**２－２「恋文」**

・初期証拠カード「恋文」「差出人の名前はギリシア人の女性によくある名前だね、関係があるかは知らないが」

・証拠カード「恋文の出てくる小説」について「私に言われましても……」

・証拠カード「マスターの冗談」について「そこまでわかってるなら、マスターに行け」

**２－３「チェンジリング」**

・初期証拠カード「読めない本」について「おそらくラテン語だね、読める部分を訳してみたが何かの演劇の台本のようだ。記者が新聞に劇の特集記事を載せていたからなにか知っているかもしれないね」

**証拠カード「一部訳の台本」を渡して下さい。**

・証拠「一部訳の台本」「それ以上何か知りたかったら他の人に聞き込みしたらいいよ」

・証拠カード「スポンサー」「貴族さんの所へ行ったほうがいいのでは……」←貴族への誘導をお願いします。

**２－４「通り魔」**

・初期証拠カード「いきなりの襲撃」に対して「殴られた事件は知らない」

・証言カード「ガールフレンド」に対して「そうなのか。なら商人に聞いてみればいいのでは？」

・証言カード「ストーカー」に対して「そうなのか。なら貴族に聞いてみればいいのでは？」

**２－５「無人教室」**依頼人　学者

子供たち相手に学習塾を開いているのだが、どういうわけか最近、生徒たちが一人もやってこない。親たちに聞いても、子供はちゃんと行っているというし……どういうことなのか調べてほしい。

・初期証拠カード「子供が来ない」「依頼文の通りだ。子供はきちんと塾が終わる頃帰宅するらしい」

・証拠「竜の玉」「竜の玉？なんのことかはわからないが、流行ものなら新聞記者に聞くのが手っ取り早いぞ？」

・証拠「貴族の所有物」「貴族様は趣味が本当に広いな。でもなんで子供たちの間で流行っているのだろう？」

・証拠カード　「子供が来ない」「貴族の所有物」に対して「直接貴族様に聞くのがいいのではないだろうか？」

**２－６「笑わない数学者」**依頼人　学者

昨晩帰宅すると私の書斎から原稿の下書きが消えていた。家族に聞いたが他に盗られたものはないらしい、一体どういうことなのか調べてほしい。

・初期「原稿に金銭価値など無いしわざわざ盗むようなものとは思えない」

・証拠カード「紙束を抱えた息子」に関して「酒場の方に行ったならマスターに聴いてみたら？」

・証拠カード「数式の書かれた紙飛行機」「原稿を持ちだしたのは息子だったのですね、お手数おかけしました」

**真相カード「犯人は息子」を渡して下さい。**

**２－７「毒殺」**

・初期証拠カード「アンダーソン氏の死」に対して

「あの事件か。なかなか興味深い毒を使ったようだね。なに、私は毒には少々詳しいのでね。警察から相談をうけたこともあるほどだよ。何か調べて欲しいものがあれば言ってくれたまえ」

・証拠カード「ボストン氏の買い物」に対して

「まあ、たしかに変な話だね。そう言えば、この前靴磨きが変なものを拾ったとか言っていたな」

・証拠カード「落ちていた万年筆」に対して

「ふむ……この中の注射器には、毒が入っていた痕跡があるね。しかもこれは犯行に使われたのと同じ毒だ」

**真相カード「決定的証拠」を渡して下さい。**

**２－８「エーシーズ・ハイ」**

・初期証拠カード「キズモノ飛行機」に対して

「うーん……飛行機と言えば貴族様が好きでしたね。かなりの腕らしいですよ。それと、記者は飛行機関係の記事もたまに書いてるみたいですね」

・証拠カード「貴族説」に対して「まずは貴族に話を聞くべきでは？」

・証拠カード　「あの日は病気」に対して「貴族様が違うとなると、心当たりはありませんね」

・証拠カード「目撃証言」に対して「貴族様ご本人に聞いた方がいいのでは？」

**２－９「伝説の薬剤師」**

・初期「あいにく私ではないよ。医学も多少なら心得はあるが、そこまでの腕ではないし」

・「星の形をしたアザ」に対して「ああ、確か前に靴磨きがアザを消したいとかいってきたなぁ。たしか星形のアザだったんで、珍しいと思ったもんだ」

　　　**証拠カード「星のアザの持ち主」を渡してください。**

・「星のアザの持ち主」に対して

「へぇ・・・そうなのかい？星のアザとは変わってるねぇ。でも、消そうとするほどの理由じゃないね？」

・「靴磨きの薬」に対して「ふーん、そんなことがあったのか」

・「路地裏の治療者」「星のアザの持ち主」「うーん。靴磨きさんに直接聞いてみたらいかがでしょうか？」

**２－１０「10年目の浮気？」**

・初期証拠カード「トマスの浮気疑惑」について「酒場に行かれているのでは？」

・証拠カード「最近あってない」について「プレゼント探しならば商人のところでは？」

・証拠「引退した指輪職人」

「あの老人ですか……確か実家が記者の家の近くだったので、そこに引っ越したのかもしれません」

・証拠カード「職人の今」について「商人に頼んで下さい」

**２－１１「届かなかった贈り物」**

・初期証拠カード「紅白の箱」に対して「紅白の箱？いや、知らないが・・・。」

・証拠カード「中身は女神像」に対して「女神像か・・・。どんな女神像かわからないと何とも言えないなぁ。」

・証拠カード「ヴィーナス像」に対して

「え？ヴィーナス像かい？ああ。それなら、新聞記者にあげてしまったよ。

　　　　もっとも彼は、私の訂正に関わらず、最後まで裸の像としか呼んでなかったが。」

　　　**証拠カード「裸体像」を渡してください。**

・証拠カード「裸体像」に対して「それ以上は私の知るところじゃないなぁ。」

・証拠カード「ツケのカタ」に対して「いや・・酒場のツケが私にどう関係あるんで？」

・証拠カード「ギャンブルのベット」に対して「ああ。マスターと貴族さんはよくギャンブルしてるからね。」

**２－１２「消えたネクタイ」**

・初期証拠カード「ネクタイは商人のもとへ」に対して「記者？私は記者に特に借りているものはないよ？」

・証拠カード「マスターの証言」に対して

「うん・・・？このネクタイは私が商人のところでかったものだが？領収書だってある。気になるなら記者のところへ持って行ってもかまわないが？」

　　**アイテムカード「ネクタイと領収書」を渡してください。**

・アイテムカード「ネクタイと領収書」に対して「それ以上言えることはないな」

・証拠「郵便の行方？」「いや、私のもとには何も来てないぞ？このネクタイは直接店へ行って買ったものだし。」

・証拠カード「ネクタイと領収証」「郵便の行方」に対して「それ以上は特に何もわからないなぁ・・・？」

**２－１３「幽霊屋敷」**

・初期証拠カード「悪霊の噂」について「悪霊なんて非科学的だね」

・証拠カード「買い叩き」について「詳しいことは知らないな、記者ならそういうことに詳しいんじゃないか」事情通の記者に誘導するような発言をお願いします。

・証拠カード「円満な取引」について「円満な取引ならそれでいいじゃないか」

（これ以上この手がかりからは情報が手にはいらないことを伝えて下さい）

・証拠カード「夜中の物音」について

「幽霊なんて要る訳が無いだろう。夜中に物音がするのであれば誰かが夜中に屋敷内をうろついているだけの話、子供が肝試し気分で遊んでいるんじゃないのか？」**証拠カード「暗闇の中で子供」を渡して下さい。**

・証拠カード「暗闇の中で子供」について「ちょっとわからないな、商人さんのところは確か子供が居たはずだから詳しいことを知っているかもしれないね」←商人への誘導をお願いします。

**２－１４「くさきものども」**

・初期「うーん・・こころあたりはないが・・流行には新聞記者が、裏路地には靴磨きが詳しいよ」

・証拠カード「腐った豆」について「腐った豆……？そんなものが食べれるのか？生憎私は料理しないからなぁ……」（もしかしたらマスターなら知っているかも？　と誘導して下さい）

・証拠カード「黒覆面の男」について「うーん……怖いねぇ。なんだってそんなものを付けているのだろうか・・？」

・証拠「料理依頼」「なんだって、私に貴族様が料理を頼むのさ。そういうのは料理ができる人に頼むだろうよ」

・証拠カード「酒場から出現」について「うーん……そんな変な客がいるのか？まさかなぁ……」

・証拠カード「料理依頼」「酒場から出現」について「うーん……マスターに聞いてみるのがいんじゃないか？」

**２－１５「紫の薔薇」**

・初期証拠カード「紫の薔薇の君について」「私はその女優は名前ぐらいしか知らんし、紫の薔薇についても、育てるのに高度な知識が必要だということしか知らんな」

・証拠カード「女優の出身」について「特に知ってることはないよ」」

・証拠カード「貴族の庭園」について「知らないなあ…」

・証拠カード「庭仕事の道具」について　「靴磨き本人に聞いてみてはどうだろうか？」

**２－１６「少年の一目惚れ」**依頼主　学者

息子が１０日前に、街で見かけた少女に恋をした。手がかりは青いバラをあしらった髪飾りしかないのだが、どうにかして少女を探し出してほしい。

・初期「依頼の通りだよ」

・アイテムカード「高価な落し物」について「金の刺繍が入っているしきっと高いものだろう、貴族さんならなにか知っているかもね」（貴族に行くよう誘導して下さい）

・証拠カード「持ち主は貴族の娘」について

「そのリボンを彼女が手にしたのは五日前だろう？では十日前に息子が見た少女は貴族さんの娘ではないな」

・「きっかけは服装展示会」「詳しいことは知らない、新聞に載っていたから記者なら知っているんじゃないか」

・証拠カード「販売は五日前から」「精巧な人形」の二枚を出された場合

「もしかすると息子の見た少女というのは展示会で使用されていた人形なのかもしれないな」

**真相カード「淡い初恋」を渡して下さい。**

（どちらか一枚の場合）「ちょっとそれでは断定できないな、確信するためにはもっと手がかりがほしいところだ」もう１枚を出すように誘導をお願いします。

**２－１７「盗まれた首飾りを取り戻して」**

・初期証拠カード「盗まれた首飾り」に対して

学者「高級装飾品の盗難とロンダリングが最近、起きているみたいだね。新聞記者が調べていたよ。」

・アイテムカード「首飾りの鑑定書」に対して

学者「おや？これは……確信は持てんが、もしかしたら偽造ではないかな。私の目に間違いがなければだが……」

　　　**証拠カード「もしかして偽造？」を渡してください**

・証拠カード「問屋がらみの犯罪」に対して

他「あぁ、そんな話もあったなぁ。私たちには関係ないだろうけれども。」

・証拠カード「もしかして偽造？」に対して

他「えぇー！！鑑定書は偽造だったのかい？たまげたなぁ。学者様がいうならそうなんだろうけど」

・証拠カード「もしかして偽造？」「問屋がらみの犯罪」に関して

他「ふーむ、装飾品のロンダリングねぇ。大変なんだなぁ……で。私に関係あるのかい？」

・証拠カード「鑑定書は偽造」に対して

他「貴族様の持ち物が盗品だなんて・・・早く教えてあげたら？」

**２－１８「行方不明の看板娘」**

・初期証拠カード「酒場のローラ」に対して

「うーん・・なじみ深い名前ではあるが・・私は酒場にはいかないからなぁ……」

・証拠カード「貴族のプロポーズ」に対して

「ああ、ごく最近の話だよ。2日くらい返事を伸ばして、結局貴族様はフラれたらしい。まぁ、貴族様からプロポーズなんてされたら怖がるのも無理はない。OKするならともかく、断るとなると、相手は権力者だから。」

・「赤毛のローラ」に対して「いや、知らないな」

・「旅支度」に対して　「ローラ……彼女の旅支度についてどうして私が知ってるのかね？」

・証拠カード「ジャックと馬車」に対して「ジャックは、先日をもって助手をやめたが……あいにくと彼のプライベートには、私は興味ないのでね」何かを隠している様子でお願いします。

・証拠カード「ジャックとローラ」に対して「ジャックと馬車」と同様に何かを隠している対応

・証拠カード「旅支度」「貴族のプロポーズ」「ジャックとローラ」に対して

「そこまで調べがついているのか……。なら話そうか。ローラとジャックはこの町を出て行ったよ。くれぐれも貴族様には内緒にしてくれ……」

　**真相カード「駆け落ち」を渡してください。**

**２－１９「失われた物語」**

・初期証拠カード「本の紛失」に対して「あの本か……未だに見つかっていない以上、おそらくもう見つかることはないと思うが……まあ、期待しないで待っているよ」

・証拠カード「アリバイ」に対して

学者　　「商人氏の言う通りだ。私は片付けのために展示会場と馬車の停車場を何度も往復していた。それでだいたい片付いてきたので、貸し出していた私の本を回収しようとしたんだが、見つからなくてね……」

・証拠カード「学者の借金」に対して

学者　　「隠しても仕方ないから白状するが、それなりの額の借金をしているのは事実だ。とはいえ、返済のあてはある。心配は無用だ」

・証拠カード「持ち物検査」に対して

他「記者の言うとおりですね。私の知る限り、皆検査には協力的でしたよ」

・証拠カード「馬車の故障」に対して

学者　　「ああ、確かにそんなことがあったな。私も少し修理を手伝ったよ」

・証拠カード「学者が馬車を？」に対して

学者　　「たまたま連続して必要な用事ができただけだよ。他に理由はない」

適当に狼狽えて下さい。

・証拠カード「細工の痕跡」、「学者の借金」に対して

（このニつが絶対必要というだけで、他の証拠が一緒に提示されても問題はない）

学者　　「そこまで調べられては、言い逃れは出来ないね。確かに、わたしが馬車に細工をして、あの本を失くしたようにみせかけたよ。展示会の前日に思いついた割には上手くできたと思ったのだが。正直、馬車の故障のタイミングが合わなければ実行しないつもりだったんだ。それでも、悪いことはできないものだな……」

　　　　　**真相カード「学者の自白」を渡して下さい。**

**３－１「表紙のない本」**

1. ふむ、中を見ても良いかな？」（はい／いいえ）　いいえだと何も分からず

「これは……いや、よく分からなかったよ。ただ、非科学的で、真っ当な内容の本では無いようだね」

**→②「非科学的な内容」**

（③貴族のところへ誘導）

④⑧⑨などが単体で出てきた場合「何が知りたいんだ？何も教えられることはないと思うが」

⑤「二人目の本探し」「そ、そうか……」

⑥「路地裏の取引」「君に教えて私が得をするわけでもないだろう」

⑩「君の依頼人の心配が、わたしになんの関係があるんだ？」

⑥（取引）⑦（呪いの書である）⑧（流通しない）（⑩貴族は信じている）＋⑨（三冊一組で、あと一冊）

（貴族は錯乱しており、マスターも心配している。だが、呪いの本は見つからない。もしあなたが過去に路地裏で呪いの本を受け取っていたなら、正直に話してほしいなどと説得）

「なるほど、マスターと貴族様が困っているのか……それなら、正直に話すとしよう。私は友人から、それらの本を無理矢理に押し付けられたんだ。私は呪いや死神などは全く信じていなかったから、雑に扱っていたら二冊を失くしてしまってね。この後しまったと気付いたよ。私がオカルトな本を広めただなどというイメージを付けて欲しくなかったから、黙っていたんだがね。」

「残りの一冊かい？　既に灰になっているよ。それでも私は生きているんだから、やはり呪いや死神なんてものは眉唾だね」

**→⑬「処分した呪いの本」**

（⑨の代わりに⑪を持ってきた場合、分岐する）**→⑫「号外・処分した呪いの本」**

**３－２「読めない手紙」**

・初期証拠カード「友人について」

学者「貴族様のところで、商売されている方でしたかね。私は直接の面識はありませんが。」

・証拠カード「鉱山の開発権入札」に対して

他「○☓商事ねえ……古い会社だから、マスターや記者なら詳しいかもな」

・証拠カード「商人の従兄弟」に対して

学者「商人ならここ最近えらくご機嫌だな。おそらく儲け話が上手く行ったんだろう。しかし鉱山の開発計画では、彼は君の友人に融資したんだと聞いていたから……ああ、入札権を得た○☓商事は彼の従兄弟の会社だったのか。従兄弟が設けたから彼は喜んでたんだな」

**→証拠カード「商人の融資」**

・証拠カード「臨時休業」に対して

他「その日か……多分関係のない話だが、あの日はマスターの店に行ったらやたら酒の在庫が少なくなっててね。俺の欲しい酒もなくて困ったよ。何かあったのかな？」

・最低限の証拠カード「金の無心」「商人の融資」＋「臨時休業」「新月」「酒の購入」（事故前の行動）

他「何か商人の発言が事実と違ったり、事故の日も怪しい行動をしていたり、

　　これは直接商人に問いただすべきでは？」

**３－３「謎の襲撃者」**

1or2：「そ、そそそんなことがあったのか！し、知らなかったなあ！（必至で落ち着こうとする）……私は被害者とは面識がないから、特に役に立つようなことは知らないよ。ところで、その灰皿はもう調査したのかね？もしまだなら、少し預からせてくれれば、私の方で調査して上げよう」

承諾した場合、「調べた結果だが、灰皿には被害者の指紋以外は付着していなかったようだ」

**9番「灰皿の指紋」を渡す。また、2番のカードを10番「調査済みの灰皿」に取り替える。**

承諾したけど、変なことをしないか目を光らせていると言われた場合、

**9番「灰皿の指紋」だけを渡す。**

拒否した場合「そ、そうか。残念だ。その気になったらいつでも頼みに来てくれたまえ」

3：「何も知らないな」

4：「何も知らないな」

5：「そ、そんな噂があるのかね？い、いや、私は何も知らないよ」

6：「何も知らないな」

3、4、6「それはおかしいな。しかし私としては一応容疑者の貴族様はともかく、他の二人が嘘をつく理由があるとは思えないな。一番付き合いの長いマスターなら心当たりがあるかもしれない」

7：「靴磨きに問いただせば？」

8：「貴族に聞け」

11：「そういうことだったのか？」

12：「こ、これは……！！まさか……！！いや、なんでもない、忘れてくれ……」

13：「うむ、別居中の妻に瓜二つなのは事実だ……。だが、本人に確認はしていない内は、断言するわけにはいかないな」今まで知らなかったのかと聞かれたら「し、知らなかったとも！」

15：「そ、それは多分、犯人が犯行直後に拭きとったんだろう……」

なぜ調べた時に言わなかったと聞かれたら「い、言い忘れていたかね……。確か言ったような気がするんだが……、何にせよ、わ、私は犯人じゃない」

14or17：「こうなっては言い逃れもできないな……。私はしばらく前にダグラスと妻が浮気しているのを知って、あの日は彼に妻と別れるように直談判しに行ったんだ……別居中とはいえ、私は妻をいまでも愛していたんだから。しかし結局は口論になり、ついカッとなってしまって……」

**真相カード、16番「学者の自白」を渡して下さい。**